

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 2月 7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104746
法人名	医療法人 愛人会
事業所名	シルバープラザグループホーム愛
所在地	鹿児島県鹿児島市谷山中央1丁目4088番地14 (電話) 099-801-6470
自己評価作成日	令和4年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いをくみとり、尊重しながらその方にとって最善の支援ができるよう、職員全員で考え、意見を出し合える環境づくりに取り組んでいる。事業所が母体病院の5階にある事で、少しの体調不良でも看護師に気軽に相談できる環境で、緊急時にも24時間連絡体制が整えられており、利用者やご家族に安心して頂けている。また、年に2回病院と合同で防災訓練を行い、災害に備えている。

日々の生活の中では、例年季節の行事として花見やそうめん流し等の外食を行っているが、現在コロナ禍で外出を伴う活動は自粛している。その中でも少しでも季節を感じて頂けるよう夏祭りや鍋パーティー、クリスマス会等ホーム内で出来る行事を工夫しながら行っている。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年2月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、地域の区画整理に伴い平成30年1月に法人母体の協力医療機関や介護医療院等があるビルの5階に移設している。谷山地区の中心街で谷山駅に隣接しており、リビングからは周辺の商業施設等の街並みや車の往来が、また、遠くには桜島も望める。新開発された地区に徐々に一般住宅も新築されるなど整備が進んできている。幹線道路沿いで利便性が高く、階下には協力医療機関(法人母体)があり急な体調不良等にも早期に対応できており、利用者や家族の安心に繋がっている。ビル全体で情報の共有や防災訓練の合同実施など、日常的に連携と協力体制が構築されている。

管理者及び職員は、地域との交流を大切に取組んできており、従来、地域の祭りの見学や駅伝の応援、ボランティアや高校生の実習、訪問美容の受け入れ等に努めてきているが、コロナ禍に配慮して現在は買い物やイベントへの参加、ボランティア、施設見学等の受け入れは控えている。高齢者福祉や認知症ケアに関する住民からの相談には適切に助言し、施設見学の希望者には1階の相談室でタブレット等を活用して案内する等、工夫しながら地域との交流に取り組んでいる。

理念に「人を愛し、人を慈しみ、人を敬う心」を掲げ、利用者の尊厳や人格を大切に、利用者に寄り添ったケアに取り組んでいる。認知症を患っていても、その人らしく、生きがいのある日々となるように利用者の思いの汲み取りに努め、余暇時間には趣味への取り組みも個別に支援するなど、利用者主体のケアを家族の意向も確認しながら取り組んでいる。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える良好な信頼関係、協力体制を構築しており、日頃の業務の中やユニット会議、職員全体会議等で意向や要望等を出し合い、また必要に応じて個人面談も行って、業務やサービスの改善を図っている。管理者は、スキルアップを図る研修の実施やケアに関する助言・指導に取り組む、勤務シフトには有給休暇の取得促進や個人的事情にも配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員一同で当事業所の理念である「人を愛し、人を慈しみ、人を敬う心」を共有し利用者本位の支援ができるよう心がけている	ホームの理念をケアの目標と共に目につきやすい廊下等に掲示して周知を図り、日頃のケアの中やユニット会議、職員全体会議で振り返りや意見交換等を行って理念に添った利用者主体の支援の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	谷山駅周辺の区画整理事業も進み、当事業所周辺も一般住宅が増えてきている。現在コロナ感染対策の為人的交流は行えていないが今後町内会や地域の行事への参加、周辺住民の来所呼びかけ等行っていく	従来、地域のイベントへの参加や散歩、買い物、学生の実習、ボランティアの受け入れ等の交流に努めてきているが、コロナ禍に配慮して、現在は買い物や外出、ボランティア等による交流は控えている。訪問美容は継続し、地域住民からの認知症ケア等の相談には電話や1階の相談室での面談による説明や助言を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ対策の為現在人的交流は行えていないが平常時は家族や友人の来所や高校生の実習等積極的に行っており地域の人々との交流に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は会議開催にかえて文書での情報提供・電話での利用者の状態報告を行っており、随時質問や意見等いただく様にしている。頂いた意見はホーム内でのユニット会議や勉強会で検討しサービスの向上につなげるようにしている	会議は家族や地域包括支援センター等が参加して定期的（年6回）に開催してきているが、現在はコロナ禍に配慮して、書面での会議に変更している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット等の資料を送付し、委員からはケアへの質問や意見、地域の情報等が電話で寄せられており、職員全体会議で検討してサービスの改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは介護保険の更新時やホームの運営等に関して相談を行い助言を仰ぐなど連携を図っている	市の担当者とは、各種制度の申請、報告に関すること、ケアに関する相談、感染症予防に関する協議、介護保険の更新等を行って指導や助言、提案等してもらうなど日頃から密に連携を図り協力関係を築いている。市からの情報はメール等で把握しサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にホーム内の勉強会の中で身体拘束を行わないケアについて確認を行っている。言葉による拘束も不適切な言葉遣いが無いよう職員同士で声をかけ合いながら取り組んでいる	身体拘束については運営規定や利用契約書に明記されており、毎月の職員全体会議の中で勉強会を実施して認識を共有している。日常的にケアの振り返りや意見交換を行い、また身体拘束排除宣言も行って拘束を行わないケアに取り組んでいる。スピーチロックなど不適切な言葉遣いには、その都度注意し合って改善を図り、外出したがるなど不安定な状況の利用者には、寄り添いや対話、廊下やベランダに設けられている菜園を一緒に散歩する等工夫して安定を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームの勉強会の中で高齢者虐待防止法について学習する機会を設け、意見を出し合い理解を深める取り組みを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県社協の福祉サービス利用支援事業を利用されておられる入居者がおられる。職員は権利擁護に関する制度の必要性を理解し支援行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約締結や」入所後の改定の際は入居者・家族を交え不安や疑問点をお聞きしながら内容の詳しい説明を行い十分理解して頂いた上で契約行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いは普段接する中での会話や表情でくみ取るよう努めている。家族の意見、要望は意見箱の設置や毎月送付する「愛だより」や電話での近況報告の際に頂き、ユニット会議等で職員内で共有し、改善できるよう努めている	日頃から、利用者や家族との信頼関係を大切に、気軽に意見や要望を述べて貰えるように配慮している。利用者の思いは日常の会話や仕草等で汲み取り、家族からは面会（コロナ禍に配慮して窓越しやテレビ電話、リモート等、状況に応じて実施）や電話、メール、意見箱の設置等で把握している。また、毎月発行の「愛だより」に利用者の写真やコメントで実態を伝えて意見を貰うように努めている。職員は出された意見を共有し、ユニット会議や職員全体会議等で協議して改善に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から気軽に意見が言える雰囲気づくりを行い、その意見を検討し、改善するよう努めている	管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼関係を構築している。日頃の業務の中や職員全体会議時に意見や要望を出し合い、必要に応じて個人面談も行って業務やサービスの改善に取り組んでいる。管理者は、常に利用者の状況に配慮したケアを大事にして業務に従事しており、ケアに関する助言や指導、スキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮する等働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップの為資格取得を促し、意欲向上をはかっている。勤務シフトに関しては職員それぞれの事情にあわせて休日や勤務時間帯等配慮を行い、働きやすい環境構築に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	月に1回ホーム内で勉強会を行い、知識、技術向上を図っている。また、外部の研修・講習案内を周知し、参加を促している		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	谷山地区のグループホーム協議会に参加し、情報交換など他事業所との連携を図り、サービスの向上につなげられるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面談を行い本人の不安や希望を聞き取り、安心して入居して頂ける環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な説明を行い不安を払拭できるよう努めている。また、入居後も近況報告など連絡を密にし安心して頂ける様な関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の段階で本人、家族と話し合い本人にとって最善の支援を見つけられるよう努めている。また、入居後の様子を見ながら早い段階で計画の見直しを行う等本人の状態にあった支援を行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にできる事に合わせ食器拭きや洗濯物たたみ等の役割を持ってもらい一方的な介護にならないような関係を築けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に月に1回広報誌「愛だより」を送付したり電話で本人の近況を伝え、要望あれば速やかに対応している。また、家族にも必要があれば対応して頂く場合もあり、協力して支援行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策の為家族との面会も制限があるが、直接面会が出来ない場合もテレビ電話を使用したりリモート面会を活用するなど、家族や知人との繋がりを持つよう支援行っている	感染予防対策を徹底して家族との窓越しの面会、テレビ電話での対話、訪問美容、家族との通院を取り組んでいるが、コロナ禍によりいろいろな制限も多い現状を考慮して、買い物や外出、一時帰宅、会食、墓参等は控えている。携帯電話を所有している利用者は日常的に馴染みの人との会話を楽しんでいる。家族との電話や手紙等を取り次ぎ、また、「愛便り」も送付して利用者の状況を伝える等、工夫しながら関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に常に注意を払いながら時には職員が間に入り良好な関係を続けられるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて家族からの相談を受け、可能な限りの支援が出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や態度から本人の思いや希望をくみ取れる様努めており、会話等が困難な場合も本人の表情・仕草や家族との相談の中で本人にとって最善な支援を検討している	利用開始時の本人や家族、関係者からの情報や日々の会話、表情、サイン等から利用者の思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら利用者主体のケアに取り組んでいる。その人らしい生きがいのある生活となるように、意向に沿って趣味（ぬり絵、ビデオ視聴、パソコンのゲーム、短歌詠み他）や家事（食事の準備や洗濯物たたみ等）の取り組みも残存能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には必ず評価や感謝の言葉を添えて充実感の修得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から本人・家族と面談・聞きとりを行い生活歴や環境・サービス利用について把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から本人との会話や行動から本人のできる事や困りごと等現状把握に努めている。また、毎日のバイタルチェックで健康状態の把握も行い、異常に気付けるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族の意向・主治医・看護師・介護職員等関係書から出た意見を取り入れ作成している。モニタリングは基本的には半年ごとに行い、また状態に変化があった場合にも行い現状に即した計画を作成している	日頃から利用者や家族の思いや意向の汲み取りに努め、主治医の指示やユニット会議、モニタリング時の職員の意見を基に、残存機能や習慣、趣味等にも配慮した利用者主体の介護計画を作成している。定期的な見直しに加え利用者の状況変化時には実態に沿って計画を変更し、利用者や家族の理解を得て改善に取り組んでいる。実施状況は業務日誌や個人台帳、バイタルチェック等に詳細に記録して共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録を入居者個別に作成し日々の様子や支援等記録している。また朝夕の申し送りや申し送りノートで職員間で情報共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援の内容をその都度見直しながら入居者個々のニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や公共施設を活用し本人が楽しみを持ち安全で豊かな生活が出来るよう取り組んでいる		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどが母体医療機関をかかりつけ医としており、希望に応じ月2回の主治医の訪問診療・週2回訪問看護での健康チェックを行っている。その他体調不良時にはその都度相談し適切な医療を受けられる体制となっている	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆んどが階下の協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2回）や体調不良時の早期の相談、受診が実施され、他科受診は主に家族が同行している。協力医療機関とは24時間医療連携の体制を構築し、週2回の看護師による衛生や健康管理も徹底しており、健康状態は家族にも密に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>事業所が母体医療機関と同一の建物にある事で医療との連携は良好であり、小さなことでも担当看護師に報告、相談し助言・指導を受けられる環境である</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は職員が様子をうかがいに行き看護師に本人の状態確認を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化・終末期に出来る事の説明をし意向確認を行い、その後も状態が変化した時等その都度意向を確認し、主治医・看護師とも方針を共有しながら支援を行っている</p>	<p>重度化や看取りの対応については、入所時に利用者及び家族に指針により説明を行い同意書を貰っている。利用者の状態変化に応じて家族と話し合いや意向確認を行い、主治医や看護師と連携してホームで可能な限り希望に沿ったケアに取り組んでおり、昨年1件の看取りを実施している。看取り終了時には振り返りや意見交換を行って不安感の軽減やスキルアップを図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命講習や研修会への参加を促し、また内部勉強会でも定期的に初期対応や応急手当についてとりあげすべての職員が対応できるように取り組んでいる</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回母体医療機関と合同で防災訓練を行っている。隣接する有料老人ホームとは避難誘導等協力体制をとっている</p>	<p>年2回、夜間災害も含む火災を想定した防災訓練をビル全体で実施し、消防署職員による災害に関する講話や消火器等の取扱い等も研修している。自主訓練時には消防設備会社に協力してもらい、また、日頃から避難経路や消火器の配置場所等の確認や災害事例を基に意見交換するなど、災害に対する認識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置、防火壁、自家発電装置等が設置され、災害時の食料・飲料水、介護用品は法人本部及びホーム双方で備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、プライドや羞恥心に配慮した声掛けを心掛け、不適切な声掛けがあれば職員同士で注意し合える環境づくりに取り組んでいる	利用者の人格の尊重やプライバシーの保護については重要事項や運営規定、利用契約書に明記され、日頃からケアの振り返りや意見交換等に努めて認識を共有している。利用者の個性、習慣等にも配慮しながら自己決定を尊重した支援に努めており、ホームはプライバシーに配慮した構造になっている。衣服の着脱や排泄、入浴時の声掛け等は羞恥心にも配慮して適切な声のトーンや言葉遣いに努め、不適切な対応には注意や助言し合って改善を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やトイレ、移動時等には声掛けし意思確認を必ず行い自己決定出来るよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった時間にとらわれず本人のペースや希望にあわせ過ごして頂ける支援行えるよう職員に周知している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	職員が支援しながら本人の好きな衣服を身に付けられるようにしている。意思疎通の困難な方には職員がその時節に合った衣類を選び、整容介助等行っている。また、定期的に訪問美容を依頼し本人の希望に応じカットやカラー・パーマ行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人の嗜好やアレルギー・嚥下能力等に応じた食事を召し上がって頂いている。食後はお盆や食器拭き等のお手伝いして頂いている。また、平常時は定期的に外食を楽しんで頂いているが現在行えていない	食事は利用者の楽しみで、関心も高いことから、嗜好やバランス、季節感等に配慮したメニューを法人の栄養士が作成し、米飯、汁物以外の副菜は法人母体の医療機関から届いている。節句や節分、お盆、クリスマス会等の行事食やおやつはホームで調理し、敬老会の仕出し弁当、誕生会のケーキ、おやつレクリエーションなど工夫しており、利用者もトレー拭き等を楽しみながら取り組んでいる。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食等は自粛中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量・水分量を記録し状態観察を行っている。食欲不振や水分不足見られる場合は主治医・看護師に報告・相談し指示を仰いでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後可能な方は声かけしご自身で、難しい方には介助行い口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、トイレ誘導行い出来るだけトイレで排泄出来るよう支援を行っている。	各利用者の排泄パターンを把握し、身体の状態や習慣に配慮した声掛け等で、可能な限りトイレでの排泄を支援しているが、4人の利用者は夜間のみポータブルトイレを使用している。利用者の状態に応じた介護用品や方法を介護計画に反映させて改善を図っている。便秘の予防に繊維の多い食材や水分の摂取、運動量、腹部マッサージ等に配慮し、主治医にも相談しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛けや運動を促し便秘予防を図っている。看護師や主治医にも相談し必要であれば薬の処方を受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日・時間を決めて入るが実際にはそれにこだわらず本人の体調や希望に合わせて日や時間をずらすなど柔軟に対応している	最少週2回の入浴を基本として支援しているが、必要時には、その都度、温タオルやシャワー浴等で清潔を保っている。入浴の順番や温度、時間、習慣、同性介助、好みのシャンプー等は利用者の意向に沿って柔軟に対応し、個浴でゆっくり楽しんでもらい、また、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで、声かけや日時の変更等を工夫しながら意向に沿って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スケジュールに沿って無理やり離床してもらうことはせず本人の状態に合わせて休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されているお薬の説明書に目を通し薬の内容や用法を理解したうえで服薬支援できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きや洗濯物たたみ等のお手伝いをしてもらい役割を持ってもらったり歌や踊り等好きな事を会話の話題にしたりレクに取り入れる等の支援行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルス対策の為行えていない。平常時は月に1回は年間計画にそって外出レクを行っている。また、個別でも人員的に可能な範囲は買い物やドライブ等お連れしている	菜園の野菜や花を愛でたり、ベランダでの外気浴、隣のユニットの利用者との交流を楽しんでいるが、コロナ禍に配慮して通院以外の外出は控えている。地域のイベントの殆どが中止され、ホームの行事も十分には実施できない状況が続いているが、室内でのゲームや手工芸、テレビの視聴、ビデオ等のレクリエーションを工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本的に預かり金・現金所持は認めておらず、本人の必要な物、欲しい物がある時は家族にお願いしたり、ホームが立て替えて買い物行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話の持ち込みは自由で、所持されている方は好きな時に電話できている。その他の方も電話の取り次ぎや手紙を出す支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターホール横には菜園があり、季節を感じられる花や野菜を植えられるようになっている。室内の温度に気を配り、快適に過ごせるよう職員が調節している	明るく余裕あるスペースのリビングは季節感のある利用者の作品や写真等が飾られて和やかで落ち着いた雰囲気になっており、窓から隣接の谷山駅や街並み、車の往来が、また、遠くには桜島等の景色が眺められている。利用者の動線に配慮してテーブルセット、椅子、テレビ等が設置され、台所からは調理の音や臭いが伝わるなど家庭的な環境になっている。ベランダの菜園には季節の野菜や花が植えられ、清掃や空調、整理整頓も徹底されて快適な環境になっており、利用者は自由で穏やかな日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、自席だけではなく自由に座れる一人用の椅子を準備しており、独りになる事も、他利用者と過ごす事も出来るようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には家族とも相談しながら食器や家具など使い慣れたものを自由に持参して頂き落ち着いた雰囲気与生活出来るよう支援を行っている</p>	<p>余裕あるスペースの居室はフローリングの床に腰高窓の設置で明るく、エアコン、ベッド、洗面台、床頭台が備えられている。利用者は家庭で長年愛用していたソファやテレビ、家族写真、パソコン、机、位牌等を持ち込み、自身が作成した貼り絵等も飾って、家庭同様に落ち着ける環境になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者個々の状態にあわせて見守り・介助を行いながら出来ることは自分で行えるよう働きかけを行っている</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない